

龍谷

Ryukoku

2017 No.84



CONTENTS

01 P01
Feature Article 巻頭特集 学長対談
人・本・旅で
生き方に目覚めよう
出口 治明 さん × 入澤 崇 学長

02 P06
5長 News
・インスティテューショナル・リサーチ (IR) 室を新設
・大学院「農学研究科」を開設予定
・大宮キャンパス「東翼」の建て替え

03 P08
People, Unlimited
人々に寄り添う音楽を
つくり続けたい
今井 なつき さん 社会学部

P10
People, Unlimited
スパイスで防虫お香
ハウス食品賞受賞
北 佳佑 さん 農学部

P12
People, Unlimited
多様な性を自然 (じねん) に生きる
“ともいき” キャンパスへ
ぜん さん LGBTs 交流サークル にじりゅう

04 P14
Education, Unlimited
自ら飛び込み感じる社会共生実習
「丹後つながる大学」
工藤 保則 教授 社会学部

P18
Education, Unlimited
内側から体感する祇園祭
泉 文明 教授 国際学部

05 P22
Special Article 特別企画
龍谷流「太陽の犯罪学」が始動
犯罪予防の世界的な拠点に
石塚 伸一 教授 法学部

06 P26
World, Unlimited
モンゴル帝国の新たな姿を映し出す
手がかりを発見
中田 裕子 講師 農学部
村岡 倫 教授 文学部

07 P30
Event Ryukoku Museum
笑って、遊んで
楽しむ地獄へようこそ
村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員

P32
Event
・龍谷大学 日本料理アカデミーシンポジウム
・法学部創設50周年記念事業 五木寛之氏講演会
・大学院農学研究科 開設記念シンポジウム

08 P34
People, Unlimited 龍谷人
グリコ新商品の仕掛け人
木村 幸生 さん 江崎グリコ株式会社

P36
People, Unlimited 龍谷人
いま大学で学ぶべきは実学よりも哲学
鈴木 ちさ さん
三菱UFJリサーチ&コンサルティング (株)

P38
People, Unlimited 龍谷人
好きなことを貫けば
いつか道は開ける
かみじょう たけし さん お笑い芸人

09 P40
News & Topics
最新情報

10 P46
Book Café
新刊紹介

01 | Feature Article

巻頭特集 学長対談

人・本・旅で 生き方に目覚めよう

ライフネット生命保険株式会社 創業者

出口 治明

×

龍谷大学学長

入澤 崇





入澤 崇 いらさわ たかし 龍谷大学学長。1955年広島県因島生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学。専門は仏教文化学。1990年文学部仏教学科に着任。ベゼクリク石窟壁画の復元事業や数多くの仏教遺跡調査に従事。2004年から5年間アフガニスタン仏教遺跡学術調査隊の隊長を務める。龍谷ミュージアム館長、文学部長を経て、2017年4月に学長就任。

斬新なビジネスモデルで注目のライフネット生命を生み出し、育て上げた出口治明氏。古都・京都を本を片手に歩んでいた、それぞれの学生時代に思いを馳せつつ、若者に必要な学びとは何か、入澤学長と語り合った。

「人・本・旅」の出会い

自分の言葉で世界を語れるように

入澤 出口さんが日頃言われている「人・本・旅」について、まさにいつも私も同じことを思っていました。今日は大学教育への考えをお聞かせいただけますか。

出口 大学は明日の日本です。30年先の日本のリーダーは、確率で言えば、今の大学で学んでいる人の可能性が高い。そうであれば、今の大学のレベルが、将来の日本のノーベル賞や、GDP、年金の姿をつくる。みんなが楽しい生活をするためには、いいリーダーを育ててほしい、となる。いいリーダーになるためには、たくさん人に会い、たくさん本を読み、いろんな所に行って見聞を広げることです。特に大学の4~5年間は、相対的に時間に余裕のあるとき。この間に、「人・本・旅」で勉強せずしていつ勉強するのか。大学がこの国の将来を決める。なんとなく進学してきた若者に対して「人・本・旅」で賢くなればこんなに楽しいことがある、と理解させるのが大学の役割だと思えます。

入澤 私の頃は大学紛争の一番最後の年でしたから、授業もあまり開かれてない状況で、果たしてこのままで良いのかなとは思いつつながら、京都の町をウロウロしていましたね。ただ本はいつも持っていました。そして、おっしゃるように「人」がターニングポイントになりま

した。3年生のときのパーリ語の先生が「ちょっとアフガニスタンに行ってくる」と見せてくれた写真が、仏像の横にヘラクレスがいるというもの。「なんじゃこれ」と自分の世界にないものを観て衝撃で。そこから今につながる学びの一步を踏み出したのです。

出口 僕はほぼ全共闘時代で、ひたすら下宿で本を読んだり、京都の町をぶらぶらしていました。けれど先生に教えていただいたことはいくつかあって。国際政治学者の高坂正堯先生からは「古典は時代背景がわからないから難しいが、現代の本を読んだり話を聞いたりしてわからなければ、それは書いたり話したりしている人がわかっていないか、わかっているけれどええ格好して難しいことを言っているだけや。そんな本は読むだけ時間の無駄やで」と、人や本の選び方を教えていただきました。僕は最初の10ページで面白くない本は読みません。またあるとき「日本の仮想敵国は?」と聞かれ、当時はまだ東西冷戦の最中だったので「ソ連に決まってる」とか「いや共産中国も怖い」と答えると、先生はカラカラと笑って「仮想敵国とは、例えば工業製品なら、同じような物を作って、同じような人々に売ってる国のことを言うんや。そしたら日本の仮想敵国はアメリカかあらへんやんか。そんな当たり前のこともわからなかったらあかんで」と。こういう一言一言で印象に残ってますよね。やっぱり社会常識を疑う力こそ大切。一度常識を疑って、土台から自分の頭で自分の言葉で考えて、なるほどと思うことを語る。僕はそれこそが、学問というか人間が生きていく上で一番の基本だと思っています。大学でそこを学生に気づかせてあげればいいですよ。



出口 治明 でぐち はるあき ライフネット生命保険株式会社創業者。1948年三重県生まれ。京都大学法学部を卒業後、1972年に日本生命保険相互会社に入社。経営企画などを経て退職後、2008年に保険外交員のいない新時代の生保「ライフネット生命保険株式会社」を開業。趣味は読書と旅。『人生を面白くする 本物の教養』（幻冬舎新書、2015年）、『「全世界史」講義I、II、教養に効く！人類5000年史』（新潮社、2016年）など、著書多数。

生き方のヒント 仏教という叡智体系

入澤 私は、常識的なものの見方を疑ってかかるということは、実は紀元前5世紀のお釈迦様がすでに言っていると思うんですね。「あるがままに見る」という仏教の教えの基本。1年生の必修授業「仏教の思想」ではいつも伝えています。私達は「あるがままに見る」ということを実はできていない。たいていの場合、先入観だったり偏見であったりフィルタを通して見ている。

出口 お釈迦様の時代から2500年も経った19世紀に、ノーベル文学賞受賞作家であるフランスのロマン・ロランが「人間にとって大切な勇気は一つ、世の中にあることをありのままに見て、それを受け入れ愛することである」と、同じことを言っています。基本的には、優れた人が言っていることって変わってませんね。脳学者に言わせれば、カエサルの言葉通り、人の脳は見たいものしか見ない構造になっているそうです。この脳の偏見を打ち破るためには「縦・横・数字」だと考えます。お釈迦様を含めて、縦つまり昔の人はどう考えたのか、横つまり世界の人はどう考えているのか、数字で見たエビデンスはどうなのかとよく考えれば、自分の視点の位置や考えの足りないとこもわかる。喜怒哀楽の「エピソード」で議論するのではなく、社会全体の数字をベースに「エビデンス」で議論をしないと、結局、脳の「見たいように見る」という癖を治すことはできないと思います。

入澤 そう考えると、お釈迦様の教えは今で言う科学の立場とすごく似ているなど思います。また、命はいずれ尽きるという人間全て

が持っている普遍性、そこから思考を展開して生命であるとか生き方をみようとしている。ここが東洋思想の代表である仏教の一つの大きな特色です。どういう風にして今後の人生を歩んでいくか。出口さんが言われるように、学びを自覚できるかどうかということ。お釈迦様を、私は教育の原点としても捉えることができるんじゃないかと思うんです。歴史知識のなかに封じ込めるのではなくて、思考のヒントとして、仏教の叡智はこれからの若者の人生でも活きるはずなのです。

出口 その通りですね。よく言いますよね、飢えた人にパンをあげちゃいけないと。大学の間に、魚の釣り方のヒントを学生に教えて社会に送り出せば、あとはその人次第で、自分で魚の釣り方を工夫して生きていけるわけです。ヒントをあたえるためには先ほど言われたように、みんながビックリするような、ものの捉え方や考え方を提示する講義を充実させていくことが一番です。ビックリしたら、何人かは考えますよね、「え?」と。もう一つは、本を読ませる仕組みだと思っています。例えば授業の基本として必ず本を読ませる。ほとんどの人は試験勉強までで忘れてしまうのですが、やっぱり良い本には毒が詰まっていますから、なかには毒が回って毒にやられて、学びに目覚める学生がでてくるかもしれませんね。

入澤 国際学部のグローバルスタディーズ学科では、在学中に授業以外で100冊の本を読もうという読書マラソンに挑戦しているのですが、それを全学的に広げていきたいですね。学生が質の良い「人・本・旅」を体験し、仏教の叡智をヒントに魚の釣り方を学ぶ。まさに本学がやりたい姿です。

02 | Ryukoku 5長 News

インスティテューショナル・リサーチ（IR）室を新設しました

龍谷大学では、全学の行動計画である「第5次長期計画（2010～19年度）」（以下、「5長」）に基づき、本学の持続可能性を高めつつ、社会からの負託に応えていくための事業を展開しています。

現在では、5長後半期事業である「第2次中期計画（2015～19年度）」（以下、第2中計）において、これまでの成果や課題などを踏まえた31のアクション・プランを定め、5長のグランドデザインで掲げた到達目標「2020年の龍谷大学（将来像）」の実現へ向けた事業推進に取り組んでいます。

今般、これら5長事業の一環として、新たに大学経営に資する調査・分析機能（＝インスティテューショナル・リサーチ機能）に係る専門部署（以下、「IR室」）を整備し、2017（平成29）年4月より稼働させました。これは、5長2中計のアクション・プラン【意思決定を支援するIR機能の組織的な整備・活用】に基づく取り組みです。

龍谷大学における、IR室の主な目的は以下のとおりです。

①大学執行部が意思決定を図る際に、必要に応じて判断の精度を高めるための支援（＝情報分析及び判断材料の提供）をおこないます。

②大学運営全般や教学運営に関して、現場部局や教学主体からの要請に応じて、各種改革や業務改善に資する情報を提供します。

18歳人口の減少やグローバル化の加速など、本学を取り巻く環境も多様かつ複雑に変化しています。本学が持続可能性を高めつつ自立的な大学運営を着実に図っていくためには、IR機能の積極的な活用を通じて、大学に内在する諸課題を客観的に調査・分析するとともに、具体的な改善策を講じていくことが求められます。今後も引き続き、IR室における機能面の強化や運用面のさらなる充実を図りたいと考えています。



大学院「農学研究科」を開設します

龍谷大学では、2018(平成30)年4月に、新たに大学院農学研究科を開設します。

本研究科は、2015(平成27)年4月に開設した農学部(植物生命学科・資源生物科学科・食品栄養学科・食料農業システム学科)を設置母体としています。本研究科では、「食」と「農」を一体的に捉えた学際的な教育・研究をより円滑に進めるために、四つの学科を一つの専攻に再編した「食農科学専攻」を設置します。

本研究科の修了生は、「食」と「農」にかかる専門的かつ、より高度な知識や技能を修得することにより、これらが抱える諸課題の解決に主体的に取り組むことのできる高度専門職業人や、研究者としての活躍が期待されます。

【概要】

名称：龍谷大学大学院 農学研究科 食農科学専攻(1研究科1専攻)

開設時期：2018(平成30)年4月(修士課程及び博士後期課程 同時設置)

目的：建学の精神に基づいて、人類が直面する「食」と「農」に関わる国内外の諸問題に真摯に向き合い、持続可能な社会の実現に貢献すべく、高度な知識・技能、高い倫理観と使命感を持って問題解決に取り組むことのできる高度専門職業人、研究者の養成を目的とする。

入学定員：修士課程 30名

博士後期課程 5名



大宮キャンパス「東麓」の建て替え

築後45年以上経過し老朽化していた東麓の、2018年2月の竣工に向けての新築工事が着々と進んでいます。建て替え後、東麓は、2016年4月に設置になった、文学部歴史学科文化遺産学専攻の教学展開へ対応することになります。同時に、大宮キャンパス全体における教育環境のさらなる充実を図るべく、講義室、演習室に加えて、学生個人やグループによる自主学習及び語学学習に資する空間として、学習支援・コモンスペースなどが整備されます。



03 | People Unlimited

人々に寄り添う音楽をつくり続けたい

今井 なつき さん

社会学部地域福祉学科4年生
高知県立高知小津高校 出身

今年デビューしたばかりながら、早くもブレイクの兆しを見せている平均21歳の女子大生バンド、sympathy(シンパシー)。高知市の女子高生4人がバンドを組み、初出場のコンテストで優勝したのが7年前。その後、初めて作った曲を聞いた音楽関係者が東京でのライブをセッティング。それを偶然聞いたレコード会社社長が衝撃を受け、すぐさま大手レコード会社と契約。と、トントン拍子で音楽業界の階段を駆け上ったこのバンド、運も実力もある。しかし、まるで天から白羽の矢を立てられたかのようなスピードで世に出た一番の理由は、今まさに人々が彼女らの音楽を求

めているからかもしれない。

そんなsympathyのベースを担当するのが、本学4年生の今井なつきさん。今井さんは大学進学後、全国に離れ離れになったメンバーとLINEやSkypeを駆使して楽曲を作り、週末には各地でライブをしながらインディーズでバンド活動を続けてきた。大学では地域福祉を専攻。限界集落の出身であることから、「高知の限界集落について」をテーマに卒論を執筆中だ。

それまで考えを口に出すことが苦手だったという今井さんだが、大学に入って変わった。「ゼミや授業で発言を求められる機会が



ライブでの今井なつきさん

多くて、自然と自分の意見を言えるようになりました。また私の音楽活動を心から応援してくれる教授や友人に出会い、大学生活はとても充実しています」

メジャー・デビューが決まったのは、3年生の時。アルバイトで訪問介護のヘルパーを経験し、福祉の仕事に興味を持った矢先だった。「音楽で食べていこうとは考えていなかったのですが、就職するかどうかずいぶん悩みました。でも、私達の音楽を聴いて“元気になった”とか“救われた”と言ってもらえると嬉しくて。音楽で誰かの役に立とうと決めたのです」

今井さんに今後の目標は？ と尋ねると、ミ

リオンセラーでもなく、武道館ライブでもなく「誰かに寄り添う曲を作り続けること」と、なんとも等身大な答えが返ってきた。その名の通り、世の中と共鳴するために生まれたこのバンドは、これからどんな音を奏でるのだろうか。今後の活躍を楽しみにしたい。



キャンパス内での普段の今井なつきさん

03 | People Unlimited

スパイスで防虫お香 ハウス食品賞受賞

北 佳佑さん

農学部資源生物科学科3年生
常翔学園高校 出身



「カルダモンの防虫効果は初耳。評価の決め手は学会にも出せそうな説得力のあるデータ」(ハウス食品 小野開発研究所長コメント)

ハウス食品株式会社の協力で農学部が実施した、スパイスを使った製品開発プロジェクト。昨秋からのこの企画には農学部有志18チームが多様なアイデアで挑んだ。6月のポスター発表の結果、ハウス食品関係者からの総合得点が最も高い『ハウス食品賞』を受賞したのが、北佳佑さん率いる『チーム塩尻』の7名による『防虫効果のあるお香—カルダモンで帰るンダモン』。香辛料(0.6gのカ

ルダモン)を主原料にラベンダーなどの精油で香りを調整したお香で、これを燃やすと衛生害虫であるショウジョウバエを寄せ付けない。燃焼時間は現段階で10分。

開発にあたり、北さんは友人に声をかけてチームをつくりprest。米びつに唐辛子を入れて虫を防ぐ慣習から、香辛料の防虫効果に着目した。また香辛料は温めると香り立つことから、火をつけるお香を発想。

彼らはまず提供された24種類の香辛料の中から、忌避効果のあるものをショウジョウバエを使った実験で探った。そしてカルダモンを割り出し、その効果的な使用量を0.1gずつ



農学部ビニールハウスで実験中の北さん

変えて実験し決定。さらにカルダモンの香り成分を分析し、ハエが嫌うユーカリの葉と同じシネオールが含まれていることを確認。それぞれ100回以上実験することにこだわり、データを信頼できるものにしていった。

「最初は1日10回だったが、追い込み時には授業の合間に交代しながら夜9時まで30回ぐらい実験しました。一人ではしんどかったと思います」。データを取り続ける情熱と根気、支え合う仲間の存在を噛みしめたという。

そんな北さんのもう一つの顔は、農学部からは初の留学生寮学生生活アドバイザー。英語を日常的に浴びる環境を自ら望んだ。寮

では前例なくミニトマトを栽培中。影響されて花を植える人も出てきたとか。短期語学留学や国内農園でワーホリなどにも軽やかに挑戦。将来は海外での果樹の品種開発研究を志望している。虫は寄せないが、そのまっすぐさで人を惹きつける北さんである。



北 佳佑さん(前列左)と「チーム塩尻」の7名

03 | People Unlimited

多様な性を 自然(じねん)に生きる “ともいき” キャンパスへ

ぜん さん

LGBTs 交流サークル にじりゅう
3年生

同性愛者などのセクシュアルマイノリティにとって、現在の社会は安全・安心とは言いがたい。龍谷大学宗教部が昨年実施した学内アンケートでは、セクシュアルマイノリティに該当し、大学で生きづらさを感じている人が多いことがわかった。そうしたなか、昨年夏に『龍谷大学LGBTs交流サークルにじりゅう』が発足し、多様な性のあり方を学内外に広める取り組みが始まっている。にじりゅうを立ち上げたメンバーの一人、ぜんさんに話を聞いた。

※LGBT=レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダーの頭文字をとったもの。一般にセクシュアルマイノリティ(性的少数者)の総称とされることも多い

「僕は物心ついたときには、同性が好きだと自覚していました。それは自然なことだと思っていましたが、思春期頃から周囲に異端視されるようになり、以降は“どうしてゲイに生まれたのか”“このまま生きていいのか”と葛藤の連続でした。

大学ではゲイであることを人に話さずにごしていました。傷つくことがこわかったからです。ですが2年生の春、セクシュアルマイノリティに関する講演会の告知を見て、迷った末に、参加することにしました。主催が宗教部と知って、“この大学では、僕のことを受け入れてくれるかもしれない”と思えたのと、何



顕真館が「ご縁」のきっかけだというぜんさん

より、同じような悩みをもつ龍大生の仲間を見つけたかったからです。そこで出会った仲間と結成したグループが『にじりゅう』です。サークル名に『LGBTs』と付けているのは、“LGBTにかぎらずセクシュアリティは多種多様である”、そして“一人ひとりがそれぞれのセクシュアリティで生きている”というメッセージをこめています。お互いの違いを認めあうことは、隔たりをつくらないことでもあるのです。

一般を対象とした講演会のほか、教職員対象の性に関するセミナーを開催したり、新聞社の取材を受けたりと、にじりゅうの活動は幅を広げています。当事者を含む学生達が

学生生活をすごしやすくなるよう、学内各機関との意見交換などの取り組みもおこなっています。今後は、他大学のLGBTサークルと連携を深めたいです。京都の大学間でつながり、交流会などの企画を展開していければと。

悩みを外に出せず一人で苦しんでいる人はまだまだ多いと思います。誰もがそれぞれのマイノリティを持つのですから、どのような人でもすごしやすい大学になるよう、選択肢や機会を増やすこと。『にじりゅう』の活動が、自然(じねん)に生きられる環境づくりにつながることを、願っています」

04 | Education, Unlimited

自ら飛び込み感じる 社会共生実習 「丹後つながる大学」

社会学部 社会学科

工藤 保則 教授

大学のないまちに手づくりの大学を

京都府京丹後市網野町の廃校・郷小学校に、突如あらわれた1日だけの小さな大学。集まった生徒は、地域の子育て中の親子さんを中心に50名ほど。子ども達を片隅で遊ばせながら、現役大学生による「語り論」や大学教授による「イクメン学」「大きく学ぶ学」「ドキュメンタリー制作演習」、地元丹後の発明家による「アイデアの作り方」などの講義や、体感・交流型のワークショップを楽しんだ。入り口には「丹後つながる大学」の看板があった。チラシには「私達は、少し離れているから、つながることができる」の言葉が。

これを仕掛けたのは本学社会学部「社会共生実習」の受講生と工藤保則教授、丹後在住のアーティスト丸山桂氏である。丸山氏が2年前に主催した「りとるたんご大学」が前身で、これは丹後出身の大学生が、大学の

ない丹後で、地域の人に向けて自らの学びを講義するというものだった。この発展型ができないかと、工藤教授は担当する「社会共生実習」の題材とした。集まった学生達で考えてたどり着いたのが、今回の「丹後つながる大学」のかたちだった。

「最初は大学生だけで何かするイメージだったのですが、丹後に足を運ぶうちに、熱い思いのユニークな方がいっぱいいることがわかりました。その魅力を発信できたらいいなという気持ちに変わってきて。だから今回の先生は、地元出身の学生だけではなく、本物の大学教授陣もいれば、地元の方々もいて、相互で学びあうスタイルにしました。この「丹後つながる大学」が少しでも、人と人がつながっていくきっかけになればいいなと思います」(富永燦子さん社会学部2年生)



工藤教授の「イクメン学」の授業を記録する学生。工藤教授は現在、4歳の息子を育てている。



机上の課題は課題じゃない 自ら社会を「体感する」実習

「社会共生実習」は学科の枠を超え、現代社会に即したオリジナルなプロジェクトに挑むという新しい授業。この「丹後つながる大学」のほかに「地域エンパワねっと」「能美の里山生活史プロジェクト」「子どもにやさしいまちをつくろう」などがある。学生はこれらを通して様々な社会課題を学び、解決に向けてチャレンジする。ところが「課題と思って解決してあげるといのは、実は違うのかもしれない」と語るのは工藤教授。

そもそも「丹後に大学がないならば、大学

生による大学をつくろう」と始まった企画だった。しかし現地に足を運ぶうち、地域貢献どころか、既に丹後はエネルギーに満ちていると工藤クラスの学生達は思い始めた。

「大学がなくて若者が外に出ていくことが課題なのかなと。でも、よく聞いてみるとそんなたいした問題じゃなかったんですね。大学を欲しいとも思っていなかったり。それよりも丹後には、集まって何か仕掛けようとする力があつた。その丹後の当たり前が素敵だと思いました。都市部ではそのようなつながりが薄く、丹後から学べるところがたくさんあります」(中川美月さん社会学部2年生)

問題を問題として決めてかかるより、問題



教室の半分をプレイルームに。子ども達を遊ばせながら、とらなりで授業が受けられる。



工藤 保則 / くとう やすのり

1967年徳島県生まれ。甲南大学大学院人文科学研究科博士後期課程単位取得退学。博士(社会学)。京都工芸繊維大学助手、仁愛大学助教授を経て、2007年より現職。専門は子どもの社会学、文化社会学。著書に『無印都市の社会学』(共編著)法律文化社、2013年、『カワイイ社会・学』(関西学院大学出版会、2015年)、第25回橋本峰雄賞、『オトコの育児』の社会学(共編著)(ミネルヴァ書房、2016年)、『基礎ゼミ社会学』(共編著)(世界思想社、2017年)などがある。

はどこにあるかをゼロベースで探ること、体感的に自分に近い問題として捉えるほうが面白い。今回、丹後と関わったことで、逆に「自分達都市部の人間にない結束力」に気づく結果となった。それが彼らの学びだと工藤教授。

「けれども、あるコミュニティのなかに入っていったり、一緒に過ごしていくことによって、生まれるものはある。解決するというのとは違う、つくっていく感じですね。わからないところに飛び込んで、学生とともに進む。『社会共生実習』はそういうことができる授業です」

本実習で今後どんなことが生まれていくのか、注目だ。

04 | Education, Unlimited

内側から体感する祇園祭

国際学部
国際文化実践プログラム
京都学実践フィールドワーク 祇園祭

泉 文明 教授

町衆とともに祇園祭を担う

7月14日祇園祭宵山の初日、御朱印を求める人や、厄除けの粽を買う人で賑わう叡天神山(あられてんじんやま)の町会所を留学生のジョスイー・エイミ(イギリス)さんが訪ねた。そこでは橋本麻愛さん(国際学部2年生)が、町内の方々や舞妓さんとともに粽の販売に奮闘していた。

これは国際学部泉文明教授による「国際文化実践プログラム 京都学実践フィールドワーク」の一環で、町衆と関わりながら祇園祭を内側から支えるスタッフとして体験するもの。自らも参加し、汗を流す泉教授は、祇園祭がおこなわれる鉦町の近隣の出身で、山鉦が建つ町内に知り合いも多く、自身の伝手を活かし学生が体験できる場を広げてきた。祇園祭をきっかけに、まだ知り得ていない国内の文化にも目を向けようという目的がある。

「地元祇園祭への参加は、観光客としてではなく、内側に入り込み、町衆の方々とコミュニケーションをとりながら、伝統や習わしを教えていただけるところが貴重です。また運営側に立つと祭を社会的かつ経済的な視点で見つめることができます。事前学習では祇園祭の歴史や位置づけ、他の祭との関連性の調査や比較、懸装品から見えるその時代の海外との関係などに学びを広げます。祇園祭というテーマから、異文化理解のための様々な気づきにつながっていけばと考えています」(泉教授)

祇園祭を初めて訪れたジョスイーさんは「見たこともない世界。近代的な街並みのなかに、伝統の固まりのような山鉦が存在するなんて、昔と現代が交差する不思議な感覚に包まれています」と感動していた。



叡天神山の前でジョズィー・エイさんと橋本麻婆さん



温故知新、習わしから今を見つめる

霰天神山は別名火除天神山ともいわれ、火防せの神様。京の街に大火があり、時ならぬ霰が降り、猛火はたちまちに消え、そのとき天神像が降ってきたのでこれを祀ったのがこの山の起こり。粽には天神にまつわる梅の花を飾り、火防せ・雷除けのお守りは神様が入れられるように上を閉じないという。プログラムに参加した22名の学生は、1800本の粽と2000点のお守りの準備作業から手伝っている。

「粽の起源や、女性の関わり方まで、今回準備から携わったからこそこの学びです。宵山に授与（販売）してみると、お客様の行列

にびっくり。京都にとって祇園祭がどれだけ大切か実感しました。今日は舞妓さんが霰天神山に来訪する日で、舞妓さんと並んで粽を授与できたことも貴重な体験です」（橋本さん）

橋本さんは多文化共生コースで世界の宗教を学ぶ。しかし、それまで日本の信仰についてあまり知らなかったという。今回祇園祭に関わったことで、「海外では自分が学び吸収するだけでなく、自分からも日本文化を発信し、自分の経験を世界にシェアしたい、それにはもっと自分の国のことを知りたい」と意欲が高まったようだ。

京都の本質を深く知りたいという学生達のニーズがある一方、祭を運営する山鉾町で



舞妓さんとともに厄除けの粽を授与する橋本さん



は空洞化とともに住民が高齢化し、人手不足に悩まされている。学生やボランティアなど町衆以外の受け入れ、女性や外国人の関わり方など、山鉾町の抱える課題は多様だ。

「山鉾町は大学生の参加を、10年、20年後の後継者育成の方法の一つとして捉えてくださっている。学生達にとっても、今後の人生でこの体験が活きるでしょう。なかには山鉾町との関係が深まり、京都に残って祭を支えようとする人材がでてくるかもしれません。これは学生と町衆の両方に応えるプログラム。継続して大学と山鉾町との関係が深まるごとに、内容や成果も深いものになっていくと信じています」(泉教授)

泉 文明・いずみふみあき
博士(文学)。国際交流基金・国際協力事業団・国際文化フォーラムなどを通して、日本語と日本文化の普及に努める。京都市生まれ・育ち。京都府庁総合政策課が推進する「京ことは」の指導とアドバイザーもつとめる。『京ことはとその周辺』など著書、論文多数。映画『天地明察』の京ことは指導、『舞妓はレディ』の京ことは考証などもつとめる。

05 | Special Article

特別企画

龍谷流「太陽の犯罪学」が始動 犯罪予防の世界的な拠点に

犯罪学研究センター センター長
法学部

石塚 伸一 教授

※調査研究活動は、1.犯罪をめぐる「知」を対人支援を基軸に再編し、これを体系化する犯罪学標準カリキュラムの構築、2.公的機関による犯罪政策の評価とあるべき政策の提言及び、3.犯罪学のリテラシーを身につけた政策の担い手の育成という三つのトピック（位相）で展開される。

石塚 伸一 いしづか しんいち 1954年東京都生まれ。中央大学法学研究科博士課程退学後、九州大学博士（法学）学位取得。北九州大学法学研究科教授を経て、1998年より本学法学部教授。現在、本学犯罪学研究センター センター長・弁護士（第2東京弁護士会所属）・日本犯罪社会学会会長。

犯罪学とは

なぜ犯罪は起こるのか、どうすれば犯罪を減らすことができるのか。この全人類の問いに答えるべく、法学をはじめ、社会学・心理学・行動学・統計学など、様々な立場から多様な犯罪現象を科学的に分析し、刑事政策への提言をおこなう。そんな学問分野を「犯罪学」という。海外では「criminology」などと呼ばれるが、日本における犯罪学は発展途上にあり、まだ研究者も少ない。

そんななか本学では建学の精神を具現化する重要な活動の一環として、犯罪や非行をおかした人達の社会復帰を支援する、独自の矯正・保護事業を展開してきた。2002年に創設された矯正・保護総合センターは、日本で唯一の刑事政策に特化した私立大学附設の研究機関として国内外から注目を集めており、公的な機関である法務総合研究所、科学警察研究所と並んで、わが国における犯罪学研究の中心となっている。また学生や一般の方々を対象に、刑務所や少年院など現場の第一線で活躍する方を招いて実務を学ぶ「矯正・保護課程」は、今年で40年目を迎える人気講座だ。

文科省のプロジェクトに採択

2020年に国際連合犯罪防止刑事司法会議が日本で開催されることもあり、これまでの活動をより発展させることが求められてきたが、このたび本学が申請した研究プロジェクト『新時代の犯罪学創生プロジェクト～犯罪をめぐる「知」の融合とその体系化～』*が文部科学省の『私立大学研究ブランディング事業』に採択され、新たに犯罪学研究センターを開設する運びとなった。

これは犯罪予防と対人支援を基軸とする

「龍谷・犯罪学」を構築し、犯罪をめぐる多様な「知」を融合する新たな犯罪学を体系化するとともに、これを基礎に犯罪現象をめぐる政策群を科学的に再編、時代の要請に応える担い手の育成をめざすものである。また、本事業は「タイプA社会展開型」「タイプB世界展開型」の二つのうちBの世界展開型に選ばれており、2016～2020年度までの5年間をかけて、龍谷ブランドとして国内外にアピールしていくことになる。

本学がめざす犯罪学とはいかなるものなのか。犯罪学黎明期より40年にわたって教鞭を取り、今回のプロジェクトを統括する石塚伸一法学部教授にお話を伺った。

共生の精神がつくる『太陽の犯罪学』

「国がつくるのは権力、強制力を持った厳しい犯罪学ですが、私達のめざす犯罪学は、共生の精神が息づいている龍谷大学だからこそできる、いわば、『やさしい犯罪学』。罪をおかした人を刑務所に入れて教育したり、改善させようとするのではなく、例えば刑務所のなかにいる人に手紙やパスカードを送って、戻ってきた時に居場所があることを伝えたり、SNSを通じて他愛ない会話をする仲間となったり、薬物依存の弁護をする弁護士グループをつくるなど、様々なNGOと連携し、研究という形で活動をサポートすることで再犯を防ぐ仕組みづくりをおこなっています。

刑務所に入ってしまうとその人の人生にさらに障がいが増え、社会復帰がいっそう難しくなってしまうことも往々にしてあります。ケースにもよりますが、できる限り刑務所に入れずに福祉につなげ、本人の主体性、自立する力を尊重して社会に戻れるよう導いていく。そんな理念をもっと広めていきたいと考えています。



これは北欧を中心として、世界の主流となっている犯罪学の考え方でもあります。骨折してもガッチリとギプスをして入院したりせず、いつも通り生活しながら治すほうが早く治るのと同じですね。私達がめざすのは、北風と太陽でいえば『太陽の犯罪学』なのです」

市民代表として世界会議で提言

「5年に一度開催される国際連合犯罪防止刑事司法会議は、各国の外務大臣をはじめ司法関係者が集まり、世界中の刑事政策の方向性や犯罪対策を話し合うもので、2020年には実に50年ぶりに日本で開催され

ます。国家の成熟や法の支配の浸透を世界中に伝える重要な会議ですが、そこで私達も国の政策に対して、市民サイドからの提言をおこなうことになっています。市民のなかには当然、犯罪をおかした当事者も入ります。当事者から見て何が必要か、何をしてほしいか。そういうことを組み込んだ政策というのは政府ではなかなかできないものです。

龍谷大学はカウンターパートとして、政府の政策に対してきちんとした批判・要求・提言をすることで、より充実した政策づくりに貢献したいと考えています。私達の研究水準が上がれば国の政策レベルも上がる。良きライバルとして相互にレベルを上げていきたいですね」

深草キャンパスには裁判所と全く同じ法廷や、取調室、接見室があり、実際の裁判を想定したロールプレイや判例研究をおこなうことができる。



次世代の犯罪学を担う人材を育成

「世界に通用する犯罪学者は日本に10人もいませんが、本学にはそのうち4人も集まっています。そんな大学はほかにありません。全ての領域をカバーできていますから、人材の育成にも力を入れたいと考えています。アメリカには犯罪学を学べる大学院が数多くあり、そこで学んだ人が刑務所の看守や警察の幹部になりますが、日本には犯罪学を学べる大学院はありません。ですから、犯罪学部を設置し、アメリカの犯罪学部のカリキュラムを参考に、日本人はもちろん海外の学生を

招いて英語で授業をしてみる。

世界には、なぜ日本にはこんなに犯罪が少ないのかを研究したい人は大勢います。しかし判例が全て日本語で書かれているからできないのです。だから英語で解説してあげればいいわけですね。日本に犯罪が少ない理由がわかれば、他の国の犯罪も減るかもしれません。そんなトライアルもしてみたいと考えています。私達のプロジェクトは壮大ですが、きっと実現できるはずです。なぜなら社会がそれを必要としているからです。ちょうど私も定年まであと5年。これまでの研究活動の集大成となるよう、本事業の達成に邁進する所存です」

06 | World, Unlimited

モンゴル帝国の 新たな姿を映し出す 手がかりを発見

農学部 食料農業システム学科（歴史学担当）

中田 裕子 講師

文学部

村岡 倫 教授

モンゴル帝国時代に作られた等身大塑像の仏像の一部



日本人なら誰もが知っている、チンギス・ハン。彼の築いたモンゴル帝国はユーラシア大陸を横断し、地球の4分の1にあたる巨大な領土と一億人を超える人民を支配していた。野蛮で暴虐な人物だと思われがちなチンギス・ハンだが、そのイメージは間違っているかもしれない。

昨年9月、この遊牧民の王の違う一面を指し示す歴史的な発見が、本学の農学部食料農業システム学科中田裕子講師らの研究グループによってなされた。モンゴル国西部でおこなったハルザンシレグ土城遺跡の発掘調査において、モンゴル帝国時代に作られたものと思われる仏像の手と足を発見したのだ。

この発見から見えてくるチンギス・ハンとは、モンゴル帝国とはどのような姿なのだろうか。調査プロジェクトに携わってきた中田裕子講師と村岡倫文学部教授に、発見の詳細と歴史的意義について伺った。

中田 我々は、1994年に日本とモンゴルの歴史学・考古学の研究者達によって結成された共同プロジェクトの一員として、モンゴル国において碑文や遺跡の調査・研究をおこなっています。プロジェクトチームは、2001年と2004年のモンゴル西部アルタイ地方での現地調査で、長年研究者の間で謎とされていたチンギス・ハンの軍事拠点であるチンカイ城がハルザンシレグ土城遺跡にあたることをつきとめました。

2004年の調査では本学の大学院生として参加した中田講師。初めて降り立ったモンゴルの地では「真実を明らかにしようとする研究者達の姿を目の当たりにし、その熱意を肌で感じた」という。それから10年以上の時を経た昨年、彼女が研究代表者となって本格的な発掘調査を開始するやいなや、今回の発見となった。



仏像が意味するものとは

チンカイの地では、モンゴルの中国遠征で捕らえられた数多くの漢人が送り込まれ、農業や武器の製造に従事していた。当時、モンゴル人はまだ仏教を信仰しておらず、今回見つけた仏像は、漢人達の信仰を尊重し、彼らのために作ったものと考えられる。モンゴルは野蛮どころか、多様な文化を許容する、文明的にも成熟した国だったのだ。

また、ハルザンシレグ遺跡からは5・6世紀のものと思われる骨片・木片・土器片も見つかった。これにより、この地が5世紀からモンゴル帝国時代に至るまでの長期間、交通の要

衝であった可能性も浮上し、モンゴル高原からアルタイ山脈を越えて中央アジアへ通じる「草原のシルクロード」を知る上で、重要な手がかりになるという。

歴史から現代のヒントを導きだす

中田 学生によくこう話すのです。「現代は技術は進んでいるけれど、宗教や民族が対立し、紛争が起きています。一方、何世紀も前にあったモンゴル帝国は、多様な民族や宗教が共存することでさらに国を豊かにすることができていた。どちらの社会が幸せでしょうか」と。



発掘調査に立ち会うエルデネ・ボルドさんと中田裕子講師（写真左より）

歴史を知ることから学べることはたくさんあります。また、物事を多角的に見て真実を導きだしていく歴史学の考え方は、様々な価値観が揺らいでいる現代を生きていく上で大切なスキルです。今回の発見を通して、学生にはそういったことも伝えていきたいと考えています。

村岡 中田先生は、2004年の調査でモンゴル側の大学院生エルデネ・ボルドさんとお会い、「今度はお互いちゃんとした研究者になってここでまた会おう」と約束したそうです。

昨年の調査では、代表は中田先生、発掘を主導したのは、今やモンゴル科学技術大学准教授となったエルデネ・ボルドさんでした。二人とも大学の先生となって再会し、12年越

しの約束を果たしたのです。今はネットで何でもすぐに調べられますが、自ら出かけて様々な出会いを体験することは、ネットでは得られない広い世界を知ることにつながります。現場に足を運ぶことは大切です。学生の皆さんもどンドン外へ飛び出してほしいですね。



中田 裕子 農学部食料農業システム学科 講師
村岡 倫 文学部 教授（左）

07 | Event Ryukoku Museum

笑って、遊んで 楽しむ地獄へようこそ



【水木少年とのんのんばあ地獄めぐり】より「閻魔大王」
©水木プロダクション(展示期間 9/23~11/12)

特別展

地獄絵 ワンダーランド

2017年9月23日(土・祝)~11月12日(日)

休館日 = 月曜日(祝日の場合は翌日)

主催：龍谷大学 龍谷ミュージアム、産経新聞社、
京都新聞、NHK 京都放送局、NHK プラネット近畿

日本の地獄・極楽のイメージの源泉となった、『往生要集』を著した恵心僧都源信の没後1000年となる今年、中世から現代までの地獄にまつわる多彩な作品を紹介する、特別展「地獄絵ワンダーランド」が9月からスタートする。摩訶不思議な地獄をめぐるよう

に鑑賞するという、なんとも楽しい展覧会だ。

まずはリアルに描かれた地獄絵の世界を、地獄に堕ちた罪人になった気分で歩いてみよう。地獄は8つの大地獄と128の小地獄からなり、生前に犯した罪に応じてあらゆる責め苦が待ち構えている。閻魔大王の裁きを受けた後は、煮えたぎる鉄の釜に放り込まれ、剣の山を歩かされ、業火に焼かれ……と、見ているだけで自分まで痛くなってくるようなおどろおどろしい絵がズラリ。

「怖い、でも見たい。そんな不思議な魅力こそが、地獄絵の面白さです」と語るのは今回の企画を担当した学芸員の村松加奈子



地獄極楽変相図 白隠筆 江戸時代 静岡・清梵寺蔵(展示期間 9/23~10/15)

さん。「近世に入って世の中が安泰になると、今度は怖さを逆手に取って遊んでしまう、洒落の利いた作品が数多く出てきます。美女にかしづく閻魔大王や個性豊かな地獄の番人達など、人間味溢れる地獄の登場人物達も見どころの一つ。今回ポスターの表紙を飾る閻魔様なんて、なんとも“ゆるかわいい”ですよ。今回の展示会は、怖～い地獄から笑える地獄まで、地獄という世界を純粋に楽しめる企画。子どもさんや若い人にも見ていただけたら嬉しいです」

木喰明満作の怪しい笑みを浮かべる彫刻群や、『往生要集』を基にした水木しげる

の原画作品まで個性的な約90点が織りなす地獄のオールスターズ勢ぞろいによる、恐ろしくも、くすっと笑える地獄絵ワンダーランド。今年秋の行楽シーズンは「この世」から「あの世」へ、時空を超える旅に出かけてみてはいかが。



村松 加奈子 龍谷ミュージアム学芸員

07 | Ryukoku Event

龍谷大学・NPO 法人日本料理アカデミーシンポジウムを東京で開催

龍谷大学は2015年4月に「食の嗜好研究センター」を設立。翌年の2016年9月には、龍谷大学とNPO法人日本料理アカデミー、日本料理ラボラトリー研究会との三者で包括連携協定を締結し、日本料理の伝統的な技術に関する研究を推進してきた。

こうした研究活動の成果を社会へ還元することを目的に、活動拠点である京都で2015年度から毎年シンポジウムを開催してきている。今回、その活動をより広く紹介するため「日本料理の不易流行」をテーマに、東京で開催した。



日時：2017年9月21日(木)
会場：国際文化会館(東京都港区六本木)

【第1部】1. 挨拶

入澤 崇(龍谷大学 学長)

2. 趣旨説明

伏木 亨(龍谷大学農学部 食品栄養学科 教授)

3. 研究者VS.料理

川崎 寛也(味の素株式会社) vs 黒木 純(くろぎ)

山崎 英恵(龍谷大学農学部 食品栄養学科 准教授) vs 高橋 拓児(木乃婦)

【第2部】プレゼンテーション「日本料理の国境と守るべき心」

笠原 将弘(賛否両論)

栗栖 正博(たん熊北店)

才木 充(直心房 さいき)

佐竹 洋治(竹茂楼)

下口 英樹(平等院表参道竹林)

宗川 裕志(大和学園)

高橋 義弘(瓢亭)

中村 元計(一子相伝なかむら)

生江 史伸(レフェルヴェンス)

村田 吉弘(菊乃井)

【第3部】一試食会ー

【第1部】研究者VS.料理



川崎 寛也



黒木 純



山崎 英恵



高橋 拓児

【第2部】プレゼンテーション



笠原 将弘



栗栖 正博



才木 充



佐竹 洋治



下口 英樹



宗川 裕志



高橋 義弘



中村 元計



生江 史伸



村田 吉弘

龍谷大学法学部創設50周年記念事業

五木寛之氏特別記念講演会『いまを生きる力』を開催

2017年6月3日、法学部創設50周年記念事業の一環として講師に作家の五木寛之氏を招いて、講演会『いまを生きる力』を深草キャンパスの3号館にて開催した。講演会には、教職員・関係者・学生・一般の方から1400名を超える申し込みがあり、五木氏の講演を聴講した。

龍谷大学法学部は、50周年記念事業のメインテーマを『グローバル化時代と私たちの未来』として掲げている。そのコンセプトは、建学の精神に基づいて日本国憲法の理念を基礎に、法学と政治学の教育・研究を通じて、広い教養と専門的な知識をもって主体的

に行動し、鋭い人権感覚と正義感のもとに自ら発見した問題を社会と連携して解決できる、自立的な市民を育成することを目的として、50周年を迎えて新たな飛翔をめざす。



講師：五木寛之氏

会場：龍谷大学深草キャンパス 3号館301教室・201教室・202教室

龍谷大学 大学院農学研究科 開設記念シンポジウム

「生命を育む食と農」

学校法人龍谷大学では、農学研究科 食農科学専攻(修士課程・博士後期課程)の設置を文部科学大臣より認可され、2018年4月より設置可能となった。

今回、農学研究科 食農科学専攻の設置にあたり、農学研究科開設シンポジウムの開催を予定している。

日時：2017年10月8日(日) 14:00～16:10

会場：龍谷大学 響都ホール 校友会館



【プログラム】 <基調講演> 「生命を育む食と農」 講師：小泉 武夫 氏(東京農業大学名誉教授)

<対 談> 小泉 武夫 氏、伏木 亨(龍谷大学大学院農学研究科設置委員長)

<農学研究科 概要説明> 講師：香川文庸(龍谷大学大学院農学研究科設置委員)

08 | People, Unlimited

龍谷人

グリコ新商品の仕掛け人

江崎グリコ株式会社 マーケティング本部
健康事業・新規事業マーケティング部
部長

木村 幸生さん

この20年ほどの間、おなじみのグリコ製品を陰で操っていた立役者の一人に龍谷人がいた。江崎グリコの木村幸生部長である。彼は1991年に入社して5年間営業を勤めた後、マーケティング部にてグリコの様々なブランド戦略に関わってきた。神田沙也加さんを起用してリニューアルに成功した『アイスの実』の裏にも、『ジャイアントコーン』の全てにチョコをトッピングし、現在のラインナップの基礎をつくった裏にも、木村さんの奔走があった。2012年からは、新しく立ち上がった『健康事業・新規事業マーケティング部』の筆頭に立ち、企業スローガン『おいしさで健康』を見つめ直し体現する新商品を世に生み出すことをミッションとしている。

彼が今も部下に語ることがあるというのが、大学時代のゼミの永田先生から卒業時にもらった言葉。「社会には、テストのように正解が一つではない。最適解があるだけで、どれが正解かわからない。そこに自分の能力の

発揮しがいがある」。この言葉が一番の学びだった。

新人だった営業時代には、先輩方々が言いたいことを言える環境をつくってくれて議論を尽くした。そうやって成長してきた。毎年、入社当初から希望していたマーケティング部への異動も言い続けた。やりたいことを叶え領域を広げるには、自分が自分に積極的であるしかない。木村さんは自分の仕掛けで物が売れる、手応えのある『商い』がしたかった。

今では念願のマーケティング部門で、世の課題に対するグリコなりの答えを探る毎日。「管理職もじっと座っておらず、あちこち顔を出すことでアイデアが出てくるのも弊社らしさ。アイデアの前では上司も部下も関係なし。どっちが最適解か戦おうよ、と言ってます。結構負けたりしてますけどね(笑)」

放ったブランドがどう人々の日常に浸透していくかを見守るのが楽しみ。今日も彼は商いのアンテナを張る。



きむら ゆきお 1991年経済学部卒(大阪府立茨木西高校出身)、江崎グリコ入社。東京で5年間の営業を経てマーケティング部へ。「ジャイアントコーン」や「アイスの実」などの事業戦略全体に関わったのち、12年から現職。プライベートでは3兄弟の父。

08 | People, Unlimited

龍谷人

いま大学で学ぶべきは 実学よりも哲学

三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)
コンサルタント

鈴木 ちさ さん

「哲学科出身という珍しがられるのですが、とんでもない。コンサルタントこそ哲学が活かせる仕事。というより哲学を学んでいれば、何だってできるんですよ」。そう熱く哲学愛を語る鈴木ちささんは、男性化粧品会社、大手学習塾、市場調査会社と多様な職歴を持つ異色のコンサルタント。鈴木さんの仕事スタイルも一風変わっている。一般的なコンサルティング業務をしつつ、例えばハロウィンなどはなぜ流行っているのか？ といった、まだ専門家がない分野でのトレンド解説などでも活躍する。モットーは「自分で自分の価値を見出し、自分にしかできない仕事をする」こと。

そんな鈴木さんの原点には、多様な価値観に触れた大学時代がある。ミニシアターで夜通し映画を見たり、アングラな音楽を求めてライブハウスへ通うなど、いわゆるサブカル好き。文化を通していろんな世界を覗いたことが、幅広い業種をクライアントに持つ現在の仕事でも役立っているようだ。

授業で衝撃を受けたのは、インド哲学。当たり前と思っていた西洋的思考法とは異なる論理パターンに、自分はある枠組みのなかで生きていたに過ぎないと悟らされた。そんな経験から培われた先入観を持たずに挑戦するスタンスが、いま彼女の強みとなっている。

また、“哲学科保護運動家”を自称する鈴木さんは、近年哲学科が減っていることに危機感を抱いている。「世界の人々と対等に仕事するには、彼らの背景を理解するための教養が必要です。日本では、大学でも資格の取得など実学が流行りですが、本来、大学とは生きるための素地を養うところ。哲学は実社会では役立たないように思われがちですが、考え方自体を学び、どんな分野にも応用できる最強の学問です。本質的な学びが求められている今、歴史と宗教に培われた豊かな教養を学べる龍谷大学は、日本でも数少ない理想的な学び舎。もっと注目されてほしいですね」



すずき ちさ 1997年文学部哲学科卒(大阪信愛女学院
高校出身)。専門分野はブランディング・マーケティング・
コミュニケーション戦略など。生活に身近なトレンドの解
析を得意とし、ワイドショーの経済コーナー解説者として
も活躍。

08 | People, Unlimited

龍谷人

好きなことを貫けば
いつか道は開ける

お笑い芸人

かみじょう たけし さん

高校野球大好き芸人で知られるかみじょうたけしさんは、今年の夏も毎日のように甲子園球場に足を運ぶ。春夏の全試合観戦をライフワークとし、現在は漫才はもちろん、高校野球のコメンテーターとしてもメディアにひっぱりだこだ。学生時代もわざわざ甲子園の近くに下宿し通学。シーズンとなれば毎日のように甲子園に足を運んで、観戦する生活を送っていたというかみじょうさんに、当時の思い出を聞いた。

「忘れられないのは、ゼミの担当だった神子上恵生先生。僕は3年生の冬には芸人になることが決まっていたからどうしても卒業したくて、卒論は『唯識二十論』についてなんとか書きあげました。その口頭試問の担当が神子上先生と現学長の入澤先生。難しい質問に戸惑いながらも必死に答え、なんとか合格。神子上先生が最後に、“有名になって帰ってくるんやで”って応援をしてくださったことを今でも鮮明に覚えています。

思えば僕は節目節目でいろんな人に助けてもらってますね。入りたかった龍谷大学に合格できたのは、優秀な同級生の指導があったこと。芸人になれたのは、芸人募集の松竹芸能オーディションに誘ってくれた龍大の先輩のおかげ。そして、僕のことをよく理解してくれた神子上先生。そんな僕から大学生の皆さんに伝えられることは、まずは好きなものを見つけてほしいということ。僕なんて、高校野球の知識を何かに役立てようなんて考えたこともないですよ。好きだから続けてこれて、いつのまにか仕事にもつながっただけ。好きなことをコツコツ続けたら何かにつながっていくんじゃないでしょうか。それと大事なのは、外へ出て、人と出会い、実際に経験すること。野球でも細かいデータはスマホで調べればすぐにわかります。でも僕は自分で球場に行きます。その場の音や熱を感じて本当に感動しているから、自分の言葉で人に伝えられるのかもしれません。そこが認められたのだと思います」



かみじょう たけし 2000年文学部仏教学科卒(兵庫県立津名高校出身)、松竹芸能所属のピン芸人。板東英二モノマネ全日本選手権優勝。高校野球好きが高じて『甲子園(笑)伝説!』(文芸社)を出版。

09 | News & Topics

最新情報



吹奏楽部 チューリッヒ国際青年音楽祭 (スイス)でグランプリを受賞

2017年7月、スイス(チューリッヒ)で開催されたチューリッヒ国際青年音楽祭「World Jugendmusik Festival」において、本学吹奏楽部はコンサート部門(56団体)に出場した。そのなかで、レベルごとに5段階に分けられているなかで、最上位の「Topレベル」(4団体)に出場し、グランプリを受賞した。



女子柔道部 武田亮子選手 オーストリアジュニア国際大会 で3位入賞

2017年6月、オーストリア・ライプニッツでオーストリアジュニア(19歳以下)国際大会がおこなわれた。本学から、武田亮子さん(経営学部1年)が女子52kg級の日本代表として出場した。一度は3回戦で敗退したものの、敗者復活戦2試合を完勝。3位決定戦も一本勝ちで勝利し、大学入学後初の国際大会で見事に3位入賞を果たした。



ユニバーシアード競技大会他、 国際大会に柔道部及びバトン トワリング部から3名が出場

2017年8月に台北で開催されたユニバーシアード競技大会(FISU国際大学スポーツ連盟が主催する学生を対象にした国際総合競技大会)に、本学から柔道部、村井惟衣さん(法学部2年)が出場。また、バトン・チアSPIRITSから田畑貴大さん(社会学部4年)、嶋村愛香さん(社会学部1年)の2名が第9回WBTFインターナショナルカップに出場した。



男子日本拳法部 第21回西日本学生拳法選手権 大会にて11年ぶりの団体優勝

2017年4月、第21回西日本学生拳法選手権大会で、男子日本拳法部が11年ぶりに団体優勝を果たした。2014年に2部リーグへと降格したが、翌年2015年には2部リーグで優勝して1部リーグに復帰し、今年度の優勝につながった。また同時に主将の田原一樹さん(経済学部4年)が最優秀選手賞を受賞。女子団体でも2015年の2部リーグ優勝に続き、今年度は創部初のベスト4に入賞となった。



バドミントン部 関西学生バドミントン選手権大 会にて3冠奪取

2017年6月、関西学生バドミントン選手権大会で、男子シングルスで清水智彦さん(経営学部4年)が優勝。女子シングルスで朝岡依純さん(法学部3年)が優勝。女子ダブルスで本田香菜子さん(法学部4年)・山藤千彩さん(政策学部4年)が優勝し、3冠に輝いた。また男女ベスト8以上としては、シングルで計9名、ダブルスで7ペアとなり、西日本学生選手権や全日本学生選手権に向けて大きな弾みとなった。



「漬物グランプリ2017決勝大 会」で農学部食品栄養学科の学 生が「一般審査特別賞」を受賞

2017年4月、東京ビッグサイトで開催された「漬物グランプリ2017決勝大会」で、決勝大会まで勝ち進んだ3組のうち、農学部食品栄養学科3年生の北村優典さんが「一般審査特別賞」を受賞した(作品名: 杉谷とうがらしの燻製醤油漬)。当日は、審査員実食による審査や作品を紹介する2分間のプレゼンテーション審査がおこなわれ、さらに一般来場者試食による投票審査をもって、結果が決定された。



ハウス食品×農学部製品開発プ ロジェクト成果報告会を開催

農学部では、2016年度後期より課外活動としてハウス食品(株)と学生有志(約80名・17チーム)が、「スパイスを使用した製品開発プロジェクト」に取り組んできた。本プロジェクトは、学生の自由な発想でスパイスを使用した新たな製品を開発することをめざした農学部として初めての取り組み。報告会はポスターセッション形式で開催され、本学関係者やハウス食品(株)研究員による採点・表彰がおこなわれた。



伏見大手筋商店街初、政策学部学生が商店街の「英語観光マップ」を作成し贈呈

政策学部の村田和代ゼミの学生が伏見大手筋商店街と連携し、外国人観光客誘致のため、商店街初の英語観光マップを作成し、贈呈した。本取り組みは、伏見稲荷大社を訪れる多くの外国人観光客が伏見大手筋商店街にまで足を延ばさないという課題からスタート。制作期間は約8カ月で、学生視点の「おすすめ観光マップ(英語)」と、日本語版しかなかった「商店街見取図」の英語版を完成させた。



京都市「学まちコラボ事業」に政策学部松浦さと子ゼミとRyu-SEI GAPの事業が認定

京都市が毎年実施している「学まちコラボ事業」において、政策学部の2団体の事業が平成29年度事業として認定された。「学まちコラボ事業」は、大学と地域が一体となり、「コラボ」する企画・事業で、まちづくりや地域の活性化に資する企画を広く募集し、審査のうえ、認定・支援するもの。認定されたのはくふかくさ町家シネマ(昭和の映像上映会) < 団地のつながりを取り戻す連携プロジェクト「桃鹿HANDs」 >



国際学部グローバルスタディーズ学科3年目、TOEICにおける全員の平均スコアが入学時より223点上昇

龍谷大学国際学部グローバルスタディーズ学科では、学生の英語運用能力を詳細に把握するため、定期的にTOEIC(R) L&R のスコアを集計している。2015年4月に入学した2年次生全員の平均スコアは661.5点となり、入学時比べて平均で223.2点上昇した。グローバルスタディーズ学科ではTOEIC(R) L&R730点等を卒業要件としており、2年終了時点で本要件を突破した学生は現時点で44名となった。



理工学部機械システム工学科のEne-1 Projectが、2017 Ene-1GP SUZUKAにて、部門優勝

Ene-1GPは毎年、鈴鹿サーキット、もてぎサーキットで開催される、充電式単三電池40本を動力源とした電気自動車の大会。ガソリンを一切使わず、電気のみを使用しエネルギーマネジメントを競う。2017年度の鈴鹿大会は8月に開催。本学からは理工学部機械システム工学科のメンバーで結成した『龍谷大学Ene-1 Project』が、KV-2(車体重量35kg以上)大学、高専、専門学校部門でクラス優勝した。



グローバル・キャリア・チャレンジプログラムを開始

2017年度から新たに実施した学生のグローバル意識醸成と、キャリア開発支援を目的とした「グローバルキャリアチャレンジプログラム」。将来のキャリアとしてグローバルな社会で活躍したいと考える学生(1・2年生)を主な対象に、グローバルに展開している企業や国際機関で必要となる知識や能力を養わせる。また、学生の学びの意欲を喚起し、学生生活において主体的に学業に取り組む姿勢、留学や語学学習などに積極的に取り組む姿勢を育むものである。



2017年度 第3回REC BIZ-NET研究会を開催

8月、瀬田キャンパスにて、2017年度第3回REC BIZ-NET研究会を開催した。今回は「バイオ」(生体分子)を対象とする産業技術のうち、物質生産や診断法及び分離精製技術についての紹介や、味の素(株)から発酵技術を駆使したアミノ酸など生体分子の生産技術について紹介。さらに(株)同仁化学研究所より生体機能調節にとって重要な酸化ストレス診断技術、AGCエスアイテック(株)から生体分子の分離精製技術についての講演がおこなわれた。



「心の講座in東京」仏教についての講話とパネルディスカッション

2017年6月、東京・築地本願寺において、「心の講座in東京」がおこなわれ、300名の聴衆の前に熱のこもった仏教の話が繰り広げられた。

1部では、入澤学長はじめ、龍谷大学の卒業生である4名の講師によるリレー講話。2部では、俳優で仏師の滝田栄さんによるコーディネートで、「仏法の種まき」というテーマでのパネルディスカッションがおこなわれた。



深草図書館の戦争と平和文献コレクション

『龍谷大学戦没者名簿』を2011年に刊行したことをご縁に、高橋三郎氏(京大名誉教授)の戦争・平和関係の蔵書(8,911点)が、2016年度に寄贈され、それらが深草図書館に収蔵された。このコレクションは、戦争・平和に関するものとしては、日本有数の質・量といわれている。この内容に絡めたREC講座を2017年6月8日~29日に全4回で開講。アジア・太平洋戦争の歴史を振り返り、現代平和の課題をあらためて認識する機会となった。



社会学部 安西将也教授・井上辰樹教授が幻のラジオ体操第3「初代版」を復元

2013年、安西将也教授らは幻のラジオ体操として、ラジオ体操第3を復元したが、それは「二代目」のものであった。この「二代目」ラジオ体操第3は、複雑で躍動的な動きのため、1946年の放送当時は音声だけで複雑な動きを伝えるのが難しく、短期間で放送終了となった。今回の復元した「初代」ラジオ体操第3は、高齢者の方や膝、腰などの下肢に課題のある方が座位でもできる体操となっている。



農学部 岩川裕美准教授が滋賀県知事賞(栄養改善事業功労者)を受賞

2017年5月28日、本学農学部食品栄養学科の岩川裕美准教授が、栄養改善事業功労者として滋賀県知事賞を受賞した。

本表彰は、栄養改善事業の普及向上、栄養士・管理栄養士制度の発展向上、栄養行政に対する協力などに特に顕著な功績があったと認められる者に授与されるものである。



理工学部近藤倫生教授らのプロジェクトチームが森の動物を飲み水から検出する森林動物調査の新たな手法を開発・検証

理工学部の近藤倫生教授と山中裕樹講師は千葉県立中央博物館の宮正樹生態・環境研究部長らとの共同研究で、哺乳類が水を飲んだり水浴びをする際に水中に放出されるDNA(環境DNA)を分析。これにより、森林に生息する哺乳類を効率的に検出する新たな技術を開発した。森林に生息する哺乳類の種類を調べるには、長期間にわたる調査が必要であったが、今回の手法で効率的に検出できるようになった。



滋賀テックプラングランプリで理工学部山中講師が最優秀賞・企業賞を受賞

2017年7月、第2回滋賀テックプラングランプリで、理工学部の山中裕樹講師が最優秀賞と企業賞(ヤンマー賞)を受賞。このグランプリは、「滋賀発成長産業発掘・育成コンソーシアム」により運営され、モノづくり、水・環境などの課題解決に資する研究開発のシーズを発掘することを目的としている。山中講師は「環境DNA分析が切り開く生物モニタリングの未来」と題して、プレゼンテーションをおこなった。



理工学部岸本直之教授が Water and Environment Technology Conference 2017でWET Excellent Presentation Awardを受賞

2017年7月、理工学部岸本直之教授が受賞した研究「Application of a dialysis-based pH control system to a microbial fuel cell using ferric-EDTA electron acceptor」は、有機性廃水を処理しつつ電力を生み出す微生物燃料電池の長期運転を可能とするpH制御法を新規開発したものだ。龍谷大学と前澤化成工業(株)の共同研究成果である。



龍谷大学と薬師寺が「連携・協力 に関する包括協定」を締結

2017年5月、龍谷大学(入澤崇学長)と薬師寺(村上太胤管主)は、教育研究活動などの活性化と、人材育成に寄与することを目的として包括協定を締結した。浄土真宗の精神を建学の精神とする龍谷大学と、南都六宗(なんとりくしゅう)の一つである法相宗(ほっそうしゅう)の大本山である薬師寺との包括協定は、今後の仏教界の活性化に大きく寄与できるものと期待される。



龍谷フロートソーラーパーク洲本 起工式を実施

2017年7月3日、龍谷大学が社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)として参画する、ため池を活用した地域貢献型フロートメガソーラー発電所「龍谷フロートソーラーパーク洲本」の着工のため、洲本市で起工式がおこなわれた。多様な担い手との協働により、今後、太陽光発電の収益を地域社会に還元し、社会課題の解決に資する事業モデルとして展開していく。発電所は、今年の秋に竣工予定。



栗東市と龍谷大学が包括協定を 締結

2017年7月11日、龍谷大学(入澤崇学長)と栗東市(野村昌弘市長)が、包括連携協定を締結した。今回の協定は、栗東市と龍谷大学が相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むことにより、滋賀の活性化などを図ることを目的としている。

10 | Book Café

新刊紹介

*値段は全て税込価格で表示
*Book Caféについては龍谷大学
学長室（広報）まで

02 『広島戦災児育成所と山下義信』 新田 光子(社会学部教授)



「広島戦災児育成所」は1945年12月、浄土真宗本願寺派僧侶、山下義信によって開設された。本書で「山下家文書」と名づけた育成所日誌など記録文書は、戦争の記憶と継承がどういった意味

であるのかを問う。「語られたり顧みられたりすることが少ない広島の史実を本書は問うてもいる」(『中国新聞』2017年6月4日、書評)。

2017年3月刊/242頁/法蔵館/3024円

02 龍谷大学社会科学研究所叢書第112巻 『地方分権と政策評価』 共同研究活動 西垣 泰幸(経済学部教授) 著



高齢化や人口減少のなかで、地方政府は財政の健全化や地域創生事業を通じた経済活性化など大きく期待されている。本書では政策評価を焦点に、地方行政サービスの効率化や住民本位の

政策形成、電子政府の在り方を最新の経済理論と数量的方法により検討した。本学の国際的ネットワークを活かし共同研究を展開した。

2017年2月刊/229頁/日本経済評論社/4536円

01 『エリノア・フロスト ある詩人の妻』 藤本 雅樹(文学部教授) 訳



伝記作者達によって不当に無視され続けてきたアメリカの国民的詩人Robert Frostの妻Elinorの真実の姿と二人の不即不離の関係が、Sandra L. Katz氏の精緻な筆致によって見事に再現されている。彼女の生涯は正に詩人の才能に捧げられた殉教者のそれであった。本書はフロストの作品世界へのアプローチに新たな視座を提供してくれる貴重な研究ともなっている。

2017年1月刊/240頁/晃洋書房/3780円

01 龍谷大学社会科学研究所叢書第113巻 『トリノの奇跡』 共同研究活動 脱工業化都市研究会 著



トリノはイタリアの自動車メーカー、フィアットの町。フィアットと二人三脚で20世紀史を歩みました。しかし、20世紀後半に産業構造の転換に直面し人口減少の縮小都市になりました。そのトリノがサヴォイア家所縁の歴史的遺産やアルプスを借景にする美しい街並み、地産地消のスローフード運動などを活用し、再生を果たした物語です。

2017年2月刊/272頁/藤原書店/3564円

03 龍谷大学社会科学研究所叢書第116巻 共同研究『安重根と東洋平和』 東アジアの歴史をめぐる越境的対話 李洙任(経営学部教授) 重本直利(経営学部教授) 著



日本では菅官房長官がテロリストと言ひ、韓国では秀吉の朝鮮侵略軍を撃退したイ・スンシン將軍と並ぶ英雄、その評価が日韓で異なる安重根。EU(ヨーロッパ連合)構想の先駆けと言われる安重根の未完の東洋平和論を掘り下げながら、東アジアで

対立する歴史認識の越境的対話を試み、東アジアの平和構想をめざす日・韓・中・蒙の研究者による共同研究。

2017年3月刊/448頁/明石書店/5400円

01

【みんなの本棚】



『訳せない日本語』

大來尚順(2004年度文学部卒業/
僧侶・翻訳家/山口県)著

僧侶の傍ら通訳や翻訳の仕事も手掛ける筆者ならではの視点で、英語に上手く訳せない「24の日本語」に秘められた深い日本の文化とその真意を探る。

2017年4月刊/204頁/アルファポリス/1296円

出版情報

01:『シリーズ 話し合い学をつくる1「市民参加の話し合いを考える」』

村田 和代(政策学部教授)編

専門的知見を持たない市民と専門家が意見交換や意思決定をする市民参加の話し合いを考える。学問領域を超え論じる実証的研究論文と座談会を収録。2017年3月刊/240頁/ひつじ書房/2592円

02:『Environmental Policy and Governance in China』

北川 秀樹(政策学部教授)著・編

日本と中国の研究者により、中国の環境問題と政策の現状、課題を分析・考察したもの。2017年3月/199頁/Springer/86.99€

03:『Ethylene Signaling: Methods and Protocols』

佐藤 茂(農学部教授)共著

植物におけるエチレンシグナリングの様々な研究手法をまとめた実験書。Methods in Molecular Biologyの一巻。2017年2月刊/272頁/Springer/109.99€

04:『京都産業学研究シリーズ企業研究第四巻 日新電機』

京都産業学研究シリーズ企業研究第四巻編集委員会編
京都における大学発ベンチャー企業の草分けである日新電機の歩みを経営戦略や豊富な資料とともに見ていく。

2017年6月刊/142頁/晃洋書房/1080円

05:『再発見 日本の哲学 北一輝—国家と進化』

嘉戸 一将(文学部准教授)著

北一輝の国家論を思想的に読み解くことを目的にしている。すなわち近代日本思想史において、北の思想が占める位置を明らかにした。

2017年2月刊/336頁/講談社/1188円

06:『多文化時代の宗教論入門』

久松 英二(国際学部教授)・佐野 東生(国際学部教授)編著

国際学部多文化共生コースの教員らによる、日常の宗教文化から世界三大宗教に至る宗教にまつわる諸テーマを扱った新しい宗教論の入門書。

2017年6月刊/259頁/ミネルヴァ書房/3456円

07:『上海びより 新訂版』

金子 真也(法学部教授)共著

話し言葉と書き言葉を両方いっぺんに学べる中国語会話教科書。経営学部4年生范禹さんの全面的な協力を得て内容豊富な新訂版完成。

2017年6月刊/72頁/好文出版/2160円

08:『中世後期 泉涌寺の研究』

大谷 由香(文学部特任講師)著

新史料に基づき、南北朝から室町期の泉涌寺を中心とした仏教のあり方を明らかにした。これまでの歴史の空白を埋める一冊。

2017年2月刊/412頁/法蔵館/6480円

09:『スッキリ! がってん! 有機ELの本』

木村 睦(理工学部教授)著

究極のディスプレイや新たな照明として期待されている有機ELの、体系的で確実な基礎知識をわかりやすく解説した入門書。

2017年3月刊/156頁/電気書院/1296円

出版情報

10:『対話表現はなぜ必要なのか』

東森 勲(文学部教授)編

対話において話し手は聞き手に何らかの情報伝達をするが、法表現、婉曲表現、談話標識、配慮表現などの基礎と応用を扱ったものである。

2017年3月刊/180頁/朝倉書店/3200円

11:『都市の憧れ、山村の戸惑い—京都府美山町という「夢」』

田中 茂(社会学部教授)編

山村に向けられた「都市の憧れ」を山村の人々はどう受け止め、過疎に苦しむ村の再生を図ってきたのか。京都府美山町を事例とする研究。

2017年6月刊/324頁/晃洋書房/3240円

12:『消費者法判例インデックス』

中田 邦博(法学部教授)共著

消費者法の判例を最近のものも含めて網羅的に紹介している。紛争解決のための現代的な消費者法の活用を知るのに役立つ。

2017年3月刊/288頁/商事法務/3672円

13:『外国人労働者受け入れと日本語教育』

田尻 英三(経済学部名誉教授)編

外国人労働者がいなければ、日本社会は運営できないという指摘もあるなかで、日本語教育の視点から外国人労働者と日本社会のあり方を問題提起する。

2017年8月刊/240頁/ひつじ書房/1836円

龍谷 2017 No.84

Ryukoku Magazine 84 September 2017

広報誌『龍谷』のデジタル版配信について

広報誌「龍谷」はデジタル版でも閲覧できます。冊子版の発送を不要とされる方は、各号に綴じ込まれているハガキ、または以下のデジタル版配信申込ページにてお申し出ください。手続き完了以降は、毎号の広報誌「龍谷」刊行ごとに、ご登録いただいたメールアドレスにデジタル版発行のご案内をいたします。

広報誌「龍谷」デジタル版配信申込ページ

<https://www.ryukoku.ac.jp/prdigital/>



下記URL及びQRコードから過去の広報誌(デジタル版)をご覧いただけます。



2016年No.81



2016年No.82



2017年No.83

Digital Library

<http://www.ryukoku.ac.jp/about/pr/publications/>



広報誌『龍谷』からプレゼント

龍谷ミュージアムペア招待券……………10組20名様
農学部とアンの共同開発商品「ソフト食パン」……………5名様
(賞味期限は、未開封の場合約30日間)



ご希望の方は、読者アンケートフォームにご回答ください。
また、ハガキでご応募の方は、ご希望のプレゼント名を明記した上で、住所・氏名・年齢・職業・電話番号(龍谷大学卒業生は卒業年度・学部なども)及び広報誌「龍谷」の感想・意見、あなたの近況などを書き添えてご応募ください。ハガキでご応募の場合は右記「プレゼント」のあて先まで。感想や近況は「読者のひろば」に掲載させていただくことがあります。

締め切りは12月8日(金)必着。

応募多数の場合は抽選で。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

広報誌『龍谷』84号(デジタル版)

プレゼント応募・読者アンケートフォーム

今後のよりよい広報誌づくりのため、Webアンケートにて皆様のご意見をお聞かせください。なお、アンケートにご回答いただいた方全員が、プレゼント抽選の対象となります。

<https://www.ryukoku.ac.jp/enquete/>



読者のひろば

卒業してからこの広報誌によって龍谷大学の活躍を知ることができるため、いつも楽しみにしています。

卒業生 F

子どもの通っている大学として、たくさんの情報がまとまっており、素晴らしい環境で学んでいることを感謝しています。

在学生保護者 I

広報誌「龍谷」を拝読し、学生や先生方の活発な活動に多くの刺激を受けています。私ももっとがんばらねばと励みになります。

卒業生 T

お便り待っています

「読者のひろば」へのお便りをお待ちしています。また、「龍谷人」などへの推薦や情報をお寄せください。いずれも以下のあて先まで。※いただいた個人情報には広報誌「龍谷」の編集以外の目的には使用いたしません。

プレゼント・お便りのあて先

龍谷大学 学長室 (広報)

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話：075 (645) 7882

FAX：075 (645) 8692

E-mail：kouhou@ad.ryukoku.ac.jp

【編集委員】

青戸 英夫、新井 潤、今川 嘉文、上手 礼子、
長上 深雪、小野 勝士、笠井 賢紀、梶脇 裕二、
川村 真梨子、木村 友貴、近藤 裕彦、芝原 正記、
末原 達郎、チャブル・ジュリアン、徳田 眞三、
外村 佳伸、野呂 靖、松本 賢、水杉 唯可、
山口 大、山口 道利、吉本圭佑、若林 雅子(50音順)

【事務局】

増田 滋彦、田中 雅子、藤崎 智史

広報誌「龍谷」84号

2017年9月11日発行

編集：龍谷大学編集委員会

制作：龍谷大学学長室(広報)

発行：龍谷大学

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

電話 075(642)1111(代表)

龍谷大学ホームページURL

<http://www.ryukoku.ac.jp>



公式 facebook 「龍谷大学」
www.facebook.com/RyukokuUniversity/



公式 You Tube 「龍谷大学」
www.youtube.com/user/RyukokuUniversity



公式 Instagram 「龍谷大学」
www.instagram.com/ryukokuuniversity/



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY